

市民と市役所が

ツナガル通信

発行日：平成 28 年 1 月 20 日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎 2 階（月～金、9:00～17:00）

TEL：086-803-1062/070-5055-7589

Vol.
8



Contents

- >> 条例施行プレフォーラムのご案内
- >> 『平成27年度岡山市市民協働推進モデル事業』中間評価公開中
- >> 課題解決ワークショップ実施報告
- >> 平成27年度「市民協働推進モデル事業」のご紹介Vol. 6

≫改正！「岡山市協働のまちづくり条例」施行プレフォーラムを開催します。

多くの市民参加のもと改正が実現した「岡山市協働のまちづくり条例」が平成28年4月1日から施行されることになりました。施行に先立ち、多様な主体が互いへの信頼を深め、協働してまちづくりに取り組むために、この条例をいかに活用し、育てていくのか、多様な主体の協働が進むことで何が変わっていくのか、その可能性を考えるフォーラムを開催します。

日時	平成28年2月17日（水） 13:00～16:00
会場	岡山市勤労者福祉センター 5階 体育集会室（岡山市北区春日町5-6）
参加費	無料
対象/定員	どなたでも/200名
プログラム ※変更となる場合がございます。	<p>①生まれ変わった協働のまちづくり条例</p> <ul style="list-style-type: none">・動画上映「岡山市協働のまちづくり条例ができるまで」・市長あいさつ「協働のまちづくり条例を活かして桃太郎のまち岡山を元気に」・条例のポイント解説 <p>②パネルディスカッション「多様な主体の協働で地域課題を解決していくために」</p> <p>パネリスト（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none">・島村 誠一さん（宇野学区連合町内会 会長）・河上 直美さん（NPO法人タブラサ 理事長）・浅野 浩一さん（株式会社サンキョウ-エンビックス 取締役業務部長）・赤坂 隆さん（岡山市政策局 地域政策担当課長） <p>コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none">・石原 達也（岡山市・NPO協働推進協議会 座長）
お問い合わせ・お申し込み	<p>「岡山市市民協働企画総務課」 TEL:086-803-1061 / Fax:086-803-1872 / mail:kyoudou@city.okayama.jp</p> <p>「ESD・市民協働推進センター」 TEL:086-803-1062/070-5055-7589 / mail: esd-smc@googlegroups.com</p>



≫「平成27年度市民協働推進モデル事業」中間評価を公開しています！

現在、市内のNPOと各担当課が実施している「市民協働推進モデル事業」7事業の中間評価を「つながる協働ひろば」にて公開しています。各事業が当初の目標に対してどのような達成状況となっていて、どのような成果と課題が明らかになっているかなどを参考にしつつ、ぜひ、今後の展開を応援してください。

「つながる協働ひろば（関連ページ）」<http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/2430#part02>

平成27年度第2回「課題解決ワークショップ」を開催しました！

市民（NPOや企業など）と岡山市（行政）が相互理解を深め、より精度の高い意思疎通を実現するための環境（関係）づくりにつなげていくことと、特定のテーマに関連のある組織・機関がお互いの有する情報・資源への理解を深め、それらを活用した、より効果の高い協働事業を生み出すことを目的として、今年度第2回目となる「持続可能な社会づくりのための課題解決ワークショップ」を開催しました。限られた時間内で様々な意見・認識を有する参加者とともに解決策を検討することは決して簡単ではありませんが、プログラムを改善しながら、継続的にこのような機会を設けていきたいと考えています。

■日時：平成27年12月18日（金） 13：30～16：30

■場所：岡山市勤労者福祉センター 5階 体育集会室

■参加者：55名（目標60名の91%）

■参加者満足度：平均74点（目標80点以上の92%）



平成27年度『市民協働推進モデル事業』のご紹介 Vol. 6

岡山市各課と市民（NPO法人等市民団体）が共通の目標達成に向けて、力を合わせて市内の課題解決に取り組む「市民協働推進モデル事業」の平成27年度採択事業の取り組みをご紹介します。

実施
団体

NPO法人
人・ふれあい・ひろば



担当
部署

岡山市発達障害者支援
センター

事業名 発達障害等で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業

「協働を通じて、目指すこと」

発達障害の子を持つ親が悩みを肯定的に受け入れ、生きがいに代えていくためには同じ境遇の人（または経験者）に悩みを打ち明け、話を聞くことが不可欠であるが、機会が限られている。それを解決するために、発達障害で悩む人に寄り添い、適切なサポートを行うことができる人材を養成する。養成課程を修了した人材が新たに場をつくり、気軽に参加して悩みを打ち明けることのできる機会を拡充していく。

■協働のススメ～岡山市職員インタビュー～ 岡山市発達障害者支援センター所長 横畑 一さん

協働相手に求める役割や期待することは？

行政が発達障害者支援を担うにあたっては、発達障害がある方への直接支援だけでなく、地域における支援体制も整えていく必要もあります。岡山市においても「地域支援体制」の整備が少しずつ進んでいるところです。不安を抱える方々が、「より身近で」・「より早く」・「きちんと寄り添える人」に相談できるような体制づくりも課題であり、協働相手にはそういった課題の解決を共に担っていただくことを期待しています。

協働を通じてどのような効果が生まれていますか？

支援のニーズが拡大している中、時間的にも空間的にも行政がたちまち対応しがたい「領域」というものが現実にあります。

協働相手が開催しておられる「相談座談会」の継続により、こういった「領域」をカバーしていただけることは、不安を抱える方々にとって、とても有効であったと考えます。

よりよい協働の実践に向けて展望を教えてください

発達障害者支援に限らず、岡山市が抱える社会課題を市民と行政が情報を共有しながら、知恵を出し合い、相互の強みや特徴も生かしながら、解決に向けて協働していくことはたいへん意義深いと思います。そういった意味で、持続可能な岡山市づくりのために日々奮闘なさっておられる「E・SD・市民協働推進センター」の今後のますますのご活躍を期待いたします。

